



フランス地方自治体向け見本市 「サロン・デ・メール」で日仏交流をPR

(一財)自治体国際化協会パリ事務所 所長補佐 澤田 充 (福井市派遣)

2019年11月19日から21日までの3日間、パリ市南西部に位置するフランス有数の広さを誇る見本市会場「ポルト・ドゥ・ヴェルサイユ」において、フランス地方自治体向けの見本市「Le Salon des Maires et des Collectivités Locales (サロン・デ・メール)」が開催され、クレアパリ事務所が出展して日仏自治体交流の紹介や日本の自治体のPRを行いました。

サロン・デ・メールの概要

サロン・デ・メールは、全仏市長会 (Association des Maires de France (AMF)) の総会に併せ毎年11月中旬にパリで開催されています。AMFとは、1907年の創設以来100年以上の歴史を持つ団体で、フランス国内約3万5,000以上の市長(メール)や広域行政組織の議長らで構成される組織であり、その活動の目的は、地方分権の推進や地方に移譲された権限を自治体が適切に遂行するための法的・財政的基盤を強化することです。年に1度開催される総会にはフランス全土から多数のメールらが集まることから、この機会に地方自治体のトップに直接自らの活動をPRすることができる絶好の機会として、毎年多数の事業者がこの見本市にブースを出展しています。サロン・デ・メールでは、各種行政分野における課題の共有や解決に向けたカンファレンスや地方自治体向けに開発された革新的製品・サービスの受賞発表なども併せて行われており、メールらにとっても、現在のフランス地方行政におけるホットトピックスや新しいサービスなどを把握するため有益な見本市となっています。主な出展者はフランス内務省、国土団結・地方自治体関係省などの国の機関や、パリオリンピック組織委員会などの各種非営利団体(アソシエーション)、行政に物品やサービスを納入する民間事業者で、今回743

の事業者が参加しました。

今年は、2020年3月の統一地方選挙(フランスの約3万5,000あるすべてのコミューンで一斉に行われるコミューン議会議員の選挙。この選挙で当選した議員から新たなメールが選出される)を控えた現役メールらの任期最終年の総会となったことや、総会の開幕にあたりマクロン大統領が挨拶に立ったことなどでも注目を集め、3日間の参加者総数は約5万8,000人にのぼりました。



サロン・デ・メールの会場



オープンデータに関するラウンドテーブル

クレアパリブースの取り組み

クレアパリ事務所は、日仏間の自治体レベルでの交流を促進すること、また、フランス自治体関係者とのネットワークを構築することなどを目的に、2002年から継続してサロン・デ・メールへブース出展しています。見本市の規模が非常に大きいことから、ブース訪問者の記憶に残り、次回も立ち寄っていただけるものとなるよう、毎年のデザインコンセプトの一貫性を重視しているほか、フランス国外の自治体関係者ではクレアが唯一の出展者であることもあり、その希少性を十分に活かすため「日本らしさ」を感じることが出来るブースとなるものとしています。ブース内では、日仏交流への関心を高められるよう、職員が「日仏自治体交流会議」や「海外

自治体幹部交流協力セミナー」などを中心にクレアパリ事務所の活動をPRするとともに、フランスの自治体と姉妹友好関係にある日本の自治体のパンフレットなども配架し、日仏自治体間の交流事例を知っていただきながら日本各地の自治体のPRを行いました。

また、東京オリンピック・パラリンピック競技大会の次の大会が2024年のパリに決まりフランスでも両大会への関心が高まっていることを踏まえ、日本各地の「ホストタウン」の取組事例の紹介を通じて日本とフランスが幅広い分野で草の根レベルの交流を活発に行っていることを説明すると、ちょうど同見本市の開催時期に、パリ大会における同様の取り組み「Terre de Jeux 2024」の認定自治体が発表されたこともあり、興味深く話を聞いていただくことができました。



クレアパリブースの概観



クレアパリ職員の説明を聞く訪問者（右）



日本各地の自治体のパンフレット

日本茶でのおもてなし

日本らしさと腰を落着けた関係構築のため、クレアパリブースでは訪問者に呈茶によるおもてなしを提供しています。この呈茶デモンストレーションは、リラックスした雰囲気の中でフランス地方自治体関係者とクレア職員が意見を交換することにより、業務上有益な情報の収集や今後のアポイントメント取得など活動の円滑化を図ることを目的として実施しているものです。



呈茶によるおもてなし

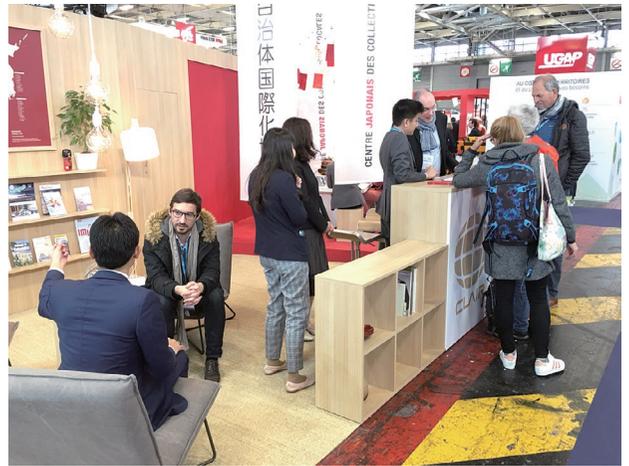
また、呈茶によるおもてなしを受ける様子が他の参加者の注目を集めるきっかけともなり、足を止めた方々とさらに話題が広がるなど、コミュニケーションの好循環を生み出しています。



呈茶デモンストレーションに足を止める展示会参加者

3日間の活動を終えて

訪問者の中には、日本らしさに目を惹かれて、「フランス地方自治体向け見本市に日本の自治体がなぜ出展しているのか」という質問からブースを訪れる方も多く、クリアパリ事務所の活動を知ると、「実は…」と日本との交流の話が弾むこともあります。今回、非常に多くの方々にクリアパリブースを訪れていただき、「提携先となる日本自治体を探している」、「小さな自治体同士で姉妹友好関係を結んでいる事例はないか」などの声を聞くことができたことで、フランス地方自治体の日本への関心の高さをうかがうことができました。



訪問者で賑わうクリアパリブース

また、今回のブース訪問をきっかけに、その後のアポイントメントにつながった事例もあり、これらの動きを日本自治体にとって有益なものに具体化できるよう取り組んでいきます。

またサロン・デ・メールは、「海外自治体幹部交流協力セミナー」参加者や、過去の業務でご縁のあったフランス自治体関係者との再会の場ともなっており、今回も多くの関係者がクリアパリブースを訪れ、彼らの近況やフランスの地方自治情勢について話をしてくれるなど、彼らとのつながりや今後の協力関係を再確認することができる場にもなっています。



サロン・デ・メールで再会したフランス・トゥールーズ近郊ルナゲのメール（写真中央）

クリアパリ事務所では、日仏自治体とのつながりを大切にし、さまざまな事業を通して両国の自治体の情報発信や自治体間交流をサポートする取り組みを推進してまいります。